

ラオスの こども通信

67号
2016年9月発行

発行：(認定)特定非営利活動法人 ラオスのこども

- たくさんの「ソフィアさん」を応援したい ▶ p.1
- はじめる・つながる・つくりだす [2016.4-2016.7]
ラオス発 ▶ p.2 日本発 ▶ p.3
- みんなでボランティア ▶ p.4
- 勉強会報告 ▶ p.4
- メコンのほとり「学」 ▶ p.4



たくさんの「ソフィアさん」を応援したい

首都の中心部から車で4時間、ヴィエンチャン県サナカム郡。夏休みを過ごす、一人の中等学校4年生を訪ねました。本が大好きなソフィアさん(15歳)です。彼女の夏休みは、私(政岡)の想像とはまったく違っていました。

朝は4時起き、ご飯のしたく、餌やり、田植え

ソフィアさんは、両親、祖父母、弟と妹の7人家族です。農業を営む両親を手伝う彼女の一日は、朝4時に起きて、お母さんと朝ごはんの用意をし、豚、鶏、そしてアヒルの餌やりから始まります。朝ごはんを済ませると、両親とバイクに乗り、渡し船を使い、さらに歩いて片道2時間かかる田んぼへ行きます。9時から夕方5時まで。2時間の昼休みをはさんで農作業をするそうです。私がラオス事務所のスタッフと訪ねた7月半ばは雨季で、田植えで忙しい最中でした。日中の気温は30度を超え、15歳のソフィアさんにとっては厳しい作業だと思えます。

一日の仕事を終えて自宅に戻ると、夜7時。家畜に餌をやり、ようやく8時半頃から夕食です。後片付けを済ませ、9時半から1時間ほどタイの連続ドラマを家族そろって見るのが楽しみとか。ラオス語はタイ東北部の方言と似ているので、多くの人がタイの番組を見ています。寝るのは10時半過ぎです。



朝ごはんの準備をするソフィアさん。

3冊の絵本

私がソフィアさんを知ったのは、彼女が通うナムクワン中等学校に図書室の利用状況を視察したときのことでした。毎日のように、ここで本を広げている生徒だと先生に紹介されたのが彼女でした。夏休みなら家でのおんびり過ごしているのではと、おじゃまする約束をしました(行って農繁期と知り、冷や汗)。

「家で本を読むことはあるの?」と聞くと、「ご飯の準備の合間に、ときどき。叔母さんがヴィエンチャンに行ったときに買ってきてくれた絵本を3冊持っています。それを繰り返し読んでいます」という答えが返ってきました。

もっと本を読みたい

学校があるときも朝4時に起きて朝ごはんの準備、家畜の餌やりがソフィアさんの日課。7時には家を出て、午前3科目、午後1科目の授業、放課後は図書室に立ち寄って、4時ごろ下校します。家に帰って夕飯の準備、掃除、家畜の餌やり、そして家族そろっての夕食です。週に3~4日はラオス語、数学、理科などの宿題が出ます。3~4時間かかり、寝るのは12時過ぎになることもあります。

「家には本がないから、いろいろ読める学校図書室が大好き。本は知らなかったことをいっぱい教えてくれる。参考書で宿題の答え合わせや復習もします」と、うれしそうに語ってくれました。図書室は午前の20分休みと放課後50分間開きます。生徒たちに人気があるのでいっぱいになることもあり、休み時間、放課後になると急いで行きます。



ラオスの主食カオニャオ(蒸したもち米)をお櫃に移します。

人気の図書室。 でも、生徒542人、蔵書872冊

ソフィアさんが通うナムクワン中等学校は1～7年生まで(日本の小6～高3に相当)542人が学んでいます。当会の支援で2014年に学校図書室ができました。はじめは小さな空き教室で開設。その後、地域住民がお金を出し合って新校舎が完成したのを機に、図書室も60人ほど入れる広い教室に移設されました。子どもたちに愛される場所だと、先生方もよく分かっています。

部屋は広くなったけれど、蔵書はどうでしょう。絵本・小説・理科・雑誌・辞書・教科書など全部で372タイトル・872冊。もちろん日本での「ラオス語絵本プロジェクト」でラオス語の翻訳シートを貼り付けた絵本も取られています！

でも、生徒数から考えたら、まだまだ冊数は不足しています。小6から高3まで、それぞれに合った本の種類も足りません。せめて、まず100冊増やしたい。

ラオスは今、中等学校への進学率が高まっています。ところが、教科書以外の本がほとんどない学校が多いのです。進学する子どもたちが増えている今こそ、図書室の本の充実が急務です。

一人でも多く、世界を広げられるように

首都ヴィエンチャンですら小さな書店が数軒しかないラオスでは、学校図書室が好きな本を選び、落ち着いて本を読める大切な場所になっていることをあらためて実感しました。ソフィアさんは「読書が好き」というよりも、「勉強が好き」な女の子です。

お話を聞かせてもらった時、「すごいねー！私は15歳の時、家の手伝いなんて全然しなかったし、勉強もこんなにしなかったよー」と伝えたら、ソフィアさんを含めその場にいた全員に笑われてしまいました。一人でも多くの子供たちが世界を広げられるように、本をもっと、もっと届けたいという思いを強くして、村を後にしました。

(政岡史織/ラオス事務所)



ソフィアさん家族から話を聞くスタッフの政岡

たくさん「ソフィアさん」を応援するために、 ご協力を！

「100冊を25校に、2,500冊の本を届けよう！」。当会は2016夏募金を呼びかけています。8月15日までに合計718,800円ご寄付いただきました。心から感謝いたします。

ラオスには、今回(夏募金チラシでも)紹介したソフィアさんと同じような思いを持つ子どもたちがたくさんいます。いっしょに応援しませんか。目標は9月30日までに150万円です。

【ご寄付の送金先】

①郵便振替

00140-6-462494 ラオスのこども

※通信欄に「夏募金」とご記入ください。

②ゆうちょ銀行

店番:019 預金種目:当座

店名:0一九(ゼロイチキウウ店) 口座番号:0462494

※「夏募金」指定の旨、事務局までご連絡ください。

③クレジットカード

ホームページ「寄付をしよう」からお入りください。

はじめる・つながる・つく

ラオス発



地域の図書担当者が、熱くディスカッション！

子どもたちが本に親しむ場を地域に広げる「学校図書室の地域への展開事業」(16校対象、4年間の事業)が2年を過ぎ、4月～5月、図書室運営を担当する地域の人たちと先生とで振り返りを行いました。

図書室運営の課題や工夫について現場での事例が紹介されると、多くの参加者が納得した様子。議論で出された改善案は、各図書室の活動計画に反映されました。例えば、「新年度開始時、1年生に図書室の使い方を教える」「快適な読書環境のため定期的に整理整頓をする」「読書を促すキャッチフレーズを壁に貼る」「読書への関心を高めるためにコンテストを実施する」などなど。図書館に慣れた人には当たり前のことかもしれませんが、現場担当者が自らの経験を踏まえて実施計画に織り込んでいることに大きな意味があります。実行への姿勢・動機が明確です。

また、活発な図書室を訪問する機会も設けました。他の図書室を訪れるのも訪問を受けるのも、お互いに初めて。参加者は大いに刺激を受け、訪問を受けた側はととても誇らしげ。活発な質疑応答がなされました。今後の活動に気が入ります。

(支援:JICA 草の根技術協力事業)



自分達で作った活動計画案を発表する様子。

事業視察ツアー

6月6日～10日、当会理事・監事を中心に、第6次中期計画(2016年6月終了)の評価のため、事業現場を視察しました。長期支援した子どもセンターの館長からは誇りを持って運営を続けていること、地方の県副教育局長からは読書推進活動が教育の質を向上させているなどの話がありました。また、活発でない学校図書室や子どもセンターを訪問し、その状況を聞き取りました。さらに奨学生から、家計を助ける日雇いの畑仕事のために学校を休まなければならなかった状況を脱したなど。次期に向けて現地スタッフと現状共有とディスカッションを行いました。

(赤井朱子/東京事務所)

大使夫妻、学校図書館を訪問

6月20日、在ラオス日本大使館引原毅大使夫妻が、私たちのプロジェクト地を訪問しました。「ヴィエンチャン子ども教育開発センター(CEC)」(2004年度開設)と建設の「ノンサアット中等学校の図書館」(2015年度開設)で、どちらも日本NGO連携無償資金協力との連携で実施したものです。

CECはヴィエンチャン都教育局が運営し、当会もスタッフ研修やイベントなどの支援をしています。子どもたちが伝統叙事詩「サンシンサイ」の詠唱を披露。大使夫妻から「いつから練習したの? 詩を覚えるのは難しくないの?」と質問。「1年前からはじめた。練習すればできるよ」と答えていました。

3月に完成したノンサアット中等学校の図書館は、オープン後2か月間、1日平均180人が利用する盛況ぶり。こちらでも夫妻は生徒たちにたくさん質問。何になりたい? という質問に、「お巡りさん」「医者になりたい」と答えた生徒たちに、「大切な仕事ですから一生懸命勉強してください」と励ましてくれました。どの生徒も真剣なまなざしで聞いていました。

(チャンタソン インタヴォン/代表)



子どもセンター館長(右)に質問する引原大使夫妻(中央)。通訳するチャンタソン(左)。

日本発

ピーマイ・パーティ2016

4月23日(土)、大田区池上会館でラオスのお正月「ピーマイ・パーティ2016」ようこそラオスへ〜を開催しました。34回目、参加者140人。パーシー儀式や、ラオス料理、活動紹介、ラオスステップダンスに加え、参加者同士で交流するグループテーマトークを実施しました。参加者からは、「ラオス人留学生の友達ができた」「ボランティアに参加してみたくなった」「ボランティアの皆さんが、がんばっている姿が印象的だった」「ラオス料理もとてもおいしかった」などの感想がありました。

パーティの収益は、ラオスの子どもたちへの支援に大切に役立っています。また、熊本地震の被災者支援への募金を呼びかけました。お預かりした11,138円は国際協力NGOセンターNGOサポート募金「熊本地震 緊急支援まとめて募金」へ寄付しました。

「社会貢献の功績」受賞しました

公益財団法人社会貢献支援財団の社会貢献者表彰「社会貢献の功績」部門に当会が選ばれ、7月1日、帝国ホテル東京で行われた表彰式典に出席しました。もう一つ「人命救助の功績」部門もあり、自分の命を張りながら人命救助をした皆さんのお話を聞いていると、私たちは大したことをやっていないなあと思いますが、きっと34年もコツコツとやってきてラオスの子ども達の教育環境を少しは改善出来たと誉めて頂いたものと理解しています。選考委員の皆様へ感謝すると共に、今までラオスのこどもを支えていただいた多くの支援者の皆様、理事の皆様、様々な活動を応援していただいたボランティアの皆様へ感謝いたします。

(チャンタソン インタヴォン/代表)

ラオスフェスティバル2016

5月28・29日、約14万人が訪れた「ラオスフェスティバル」。ラオス語図書205種類約86万冊をラオスで出版している当会の本を日本で紹介する数少ないチャンスです。昨年売り切れだった『星の王子さま』がどうしてもほしい! と一番のりした方、レシピ本を手に「美味しそう。この料理大好き」とまとめ買いするラオスの方、ラオス人のお子さんへのプレゼント用にと絵本を買う方など、本の販売は好評でした。

ラオス語絵本づくり参加者募集中!

7/2 沖電気工業本社 第17回「ラオス語絵本をつくってラオスの子どもたちに送ろう!」26人のみなさんが参加して絵本は合計71冊作り上げました!

さらに、多くの方にラオス語絵本づくりに協力いただきました。

6/24 文化学園大学杉並高等学校 異文化理解プロジェクト

7/13 昭和女子大学「国際福祉フェア」

7/23 パルシステム神奈川ゆめコープ「平和・国際フェスタハー トカフェ2016」

7/29 パルシステム神奈川ゆめコープ平塚エリア経営会議「ラオスの子ども達へ絵本を送ろう」

「ラオスのこども」ではラオス語絵本づくり体験で、ボランティアを呼びかけています。講演とセットにして、学校や企業での実施もできます。

「ラオスってどんな国?」「ラオスでどんな活動をしているの?」など少しでも興味がありましたら、お気軽にご参加ください。



作成した絵本。これからラオスの子ども達に届けます。

みんなでボランティア

人と人の交流が根強い魅力的な国

雲田理愛/インターン

大学でラオス国際協力研修に参加したことがきっかけで毎週月曜参加しています。ラオスフェスティバルは、大変思い出深い一日でした。参加する側と違い、出展側は大変だと実感しました。どうすれば、ラオスや国際協力を詳しくない人にブースに立ち寄ってもらえるか、活動をより知ってもらえるのか、など考えることが多いのだと。

昨年ラオスのラトゥアン村にホームステイをしました。温厚で優しい方ばかりでした。村に到着した日、花を片手に列を作って歓迎してくれました。村を出る日には、カオピヤック(米の麺)を振るまってくださり、旅の無事を祈願するパーシーをしてくれました。ラオスは日本ではあまり知られていませんが、自然豊かで、人と人の交流が根強い魅力的な国です。その魅力をぜひ知ってもらいたいです。



勉強会報告

「ラオスの子どもたちの読書と教育 —都市部と地方で広がる格差」 (2016年6月18日 ライフコミュニティ西馬込)

報告者: 政岡史織 (ラオス事務所駐在員)

地方ではラオス語を母語としない民族が多い。学校では母語とは関係なくラオス語で授業が行われる。学校以外に本に触れられる場所がない。一方、都市部は中等学校への進学が当たり前になり、進学者が急増。設備が追いつかない。教科書以外の図書がなく、わかりやすい授業や自発的な学習ができにくい。「学校に図書室ができるまで、教科書以外に本を見たことがない」と話す子どもがいた。

それぞれの課題に、読書推進活動は何かができるのか。学校、地域での図書室運営などの報告とともに意見交換をしました。

メコンのほとり学

直にふれ合って感じる×勉強会で学び考える

葉山智美/インターン

今年の夏、リコーダー・ダンス教室のボランティアに参加しました。それが初めてのラオス訪問でした。訪問前までは、インターンや勉強会を通してラオスの情報を得ていました。とくに勉強会は、現地で活動をされてきた方の話をじっくりと聞くことができ貴重な機会でした。それを経てラオスの自然の豊かさ、人々やラオスという国の魅力を感じる事ができたと同時に、異なる点からラオスを見る事ができました。

例えば、ラオスには本屋がほとんどないことや、都市と農村の生活の違いに気づきました。私が行った首都ヴィエンチャンはお店が多くほとん

ど必要なものはすぐに買い求めることができました。しかし、本屋を見かけることがなかったので。ラオスの人々の日常の中で本の存在がいかに遠いものであるかを実感した瞬間でした。

また、都市の多くの子どもが自分の携帯電話やスマートフォンをもって、勉強会で知った農村の人々の生活とは全く異なるものでした。帰国後も勉強会に参加し、会に関わる方々とお話することによりそれぞれのラオスへの強い想いを知ることができました。そこで、ラオスのもっと色んなことを知りたくなり、常に自分の意見を持って会に関わっていきたくて改めて考えるきっかけとなりました。皆さんももっとラオスのことを知ってみませんか？



特定非営利活動法人 ラオスのこどもの目的は、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を主体的に選択でき、公正で平和な地球社会づくりに貢献することです。教育が十分に普及していない地域のひとつラオスで活動し、ラオスと日本をはじめ子ども、人々の参加を通じて、だれもが成長の機会を得ることをめざします。

ラオスのこども通信 67号

2016年9月発行 編集人: 森透
発行: Action with Lao Children / Deknolao
(認定) 特定非営利活動法人 ラオスのこども
〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12 ミキハイツ303
TEL/FAX 03-3755-1603
e-mail: deknolao@yahoo.co.jp
http://deknolao.org
都営地下鉄浅草線 西馬込 南口下車 徒歩7分
郵便振替 00140-6-462494

これからの予定 2016年9月~12月

2016年も活動ミーティングを奇数月、勉強会を偶数月、それぞれ第3土曜日に開催します(一部異なる日もあります)。

<活動ミーティング>

現地報告、国内イベントの打ち合わせ、会の運営の意見交換などを行います。
11/19(土)

<勉強会>

今回の勉強会は企画調整中です。内容や会場とあわせ、詳細はホームページでお知らせします。みなさんの参加お待ちしております。

<2016年度通常総会>

9/17(土) 14:00~17:00 ライフコミュニティ西馬込2F(予定)(都営浅草線「西馬込」駅南口徒歩1分)で開催します。

<イベントスケジュール>

●「グローバルフェスタ JAPAN2016」

日時: 2016年10月1日(土)・2日(日) 10:00~17:00

場所: お台場・センタープロムナード公園(シンボルプロムナード公園内) 東京都江東区青梅1-2

●「よこはま国際フェスタ2016」

日時: 2016年10月8日(土)・9日(日)・10日(祝・月) 10:30~16:00

場所: グランモール公園 神奈川県横浜市西区みなとみらい3丁目
詳細は別紙をご覧ください。